

「福島差別」を許さない 緊急アピール

「福島差別」が生まれ始めています。福島原子力発電所の放射能漏れ事故にともなう近隣住民や福島県民に対する差別です。

マスコミ報道によると、福島県から千葉県に避難してきた子どもに対して、地元の子らが「放射線がうつる」とはやし立て逃げ去っていくという出来事があったといます。茨城県では福島県からの転入者に対して、放射能検査を受けた証明書の提示を求めている問題が発覚しました。高速道路のサービスエリアでも「福島の車は来るな」と罵声を浴びせられるという事件が起こり、「いわきナンバーで来ないでほしい」と言われた運送会社もあります。

放射線医学総合研究所に開設された相談窓口にも、「アパートの入居で難色を示された」「福祉施設や病院で被ばく線量を調べるスクリーニング検査の証明書の提出を求められた」といった差別の実態が届けられています。

福島原発事故に端を発した明らかな偏見であり、露骨な排除をともなう差別です。

震災から100日も経たないわずかな期間に、かつて存在したことのない新しい差別が作り出されています。目の前で、リアルタイムで増殖し始めている「差別の発生」に、驚きと怒りを禁じ得ません。

地震や津波は、巨大な破壊をもたらしましたが、差別をつくり出してはいません。原発事故は、深刻な放射能漏れを起こしていますが、それ自体が差別を生んでいるわけではありません。差別はこうした大災害のもとで、人間がつくり出しているのです。

広島、長崎の原爆被爆者が、健康への不安、生活への不安とともに、差別への不安を強いられてきた痛恨の歴史は記憶に新しいところです。この誤りを福島原子力発電所の放射能漏れ事故において繰り返してはなりません。

差別の怖さ、差別されることの口惜しさを体験してきた私たちは、心の底から訴えます。

全国の皆さん、震災の被害者をさらにむち打つ「福島差別」をなくしましょう！

全国の行政機関・教育機関、そしてマスコミの皆さん、差別の拡大を許さない「人権の世論」をともに創り上げていきましょう！

2011年6月9日

「差別禁止法の制定を求める市民活動委員会」発会式参加者一同